



# オーク・サウザン

オーク様の使い・魔にされた  
姫騎士物語

てんぽ大好きな性処理使い魔に蹂躪された姫騎士の殺せの最強姫騎士

フルカラーコミック  
64ページ

聖華快樂書店

レイスヴァイン王立騎士団の  
団長・アリシア・フォン・  
レイスヴァインは、  
危険地帯の見回りの最中に  
統制の取れたオークの集団に  
遭遇してしまった

いかにアリシアが武勲を上げ  
個人でも高い実力を誇る  
騎士であっても、多勢に無勢の  
状況では不利な形勢を  
逆転するには至らず、  
オーク達に囚われてしまった  
のだった

我が軍門に下るのであれば  
命だけは助けてやっても  
いいぞ？

不覚……っ  
くっ、ひと思いに殺せ！

貴様らのような  
卑しい者の配下にな  
るくらいなら  
死んだ方がマシだ！

その威勢の良さが  
いつまで続くかな？



あああ

アリシアの率いる騎士団は  
オークロードの手下を  
何人も屠っていた

散々煮え湯を飲まされた  
オークロードは  
それを指揮した  
アリシアに対し、  
報いを与えんと  
彼女の周りが  
手薄になる瞬間を  
狙っていたのである

あああああ

いやあああ



……っ、ふんっ！

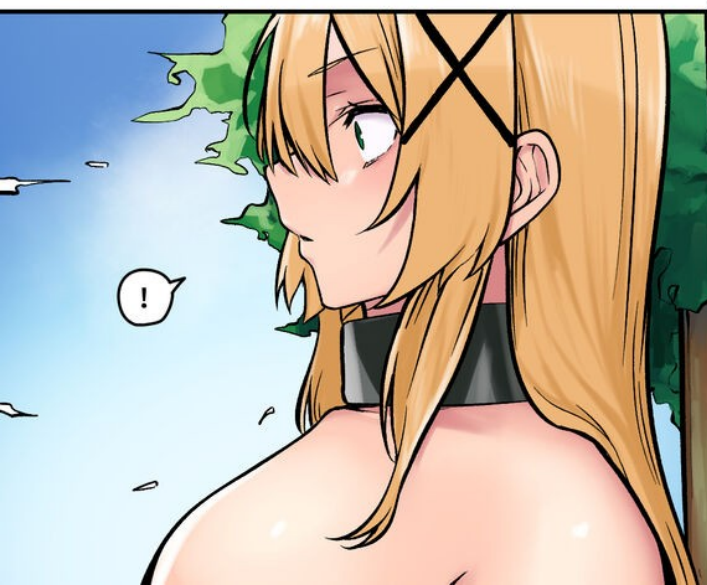
怖気づいたか？



あああああ



ガキヤッ



！



私が拷問対策を  
していないと  
思ったのか……？

痛みなら  
いくらでも  
耐えられる……！



なんだ  
これは……？



はっ！

なに、薄汚れた貴様を  
洗ってやろうと思っ  
てな  
お前たち



貴様らのような  
汚いオークが  
触れていい体ではないっ

ひいっ！  
触るなあっ！



いい体つきを  
しているじゃないか  
これは期待が出来そうだ

フエ

フエ

お、おのれ……っ  
貴様ら、絶対に許さんぞ……っ

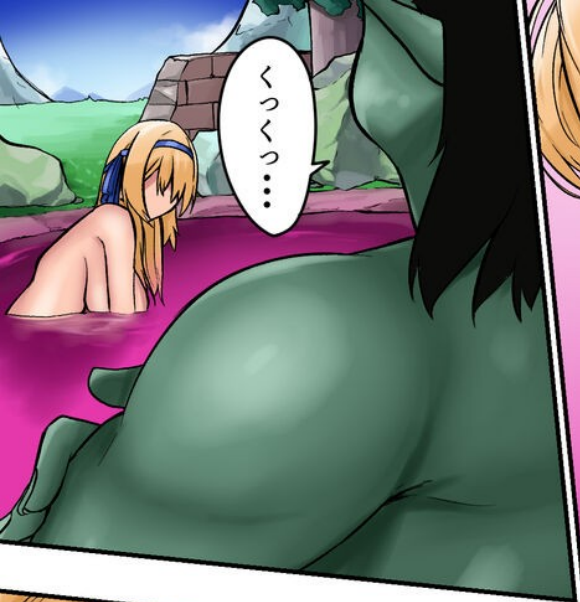


くっ……なんだ  
この泉は……？  
妙に、体に絡む……っ



さあ、思う存分  
汚れを洗い流すがいい  
——下らぬ人間の矜持という  
取るに足らない汚れをな

グッ

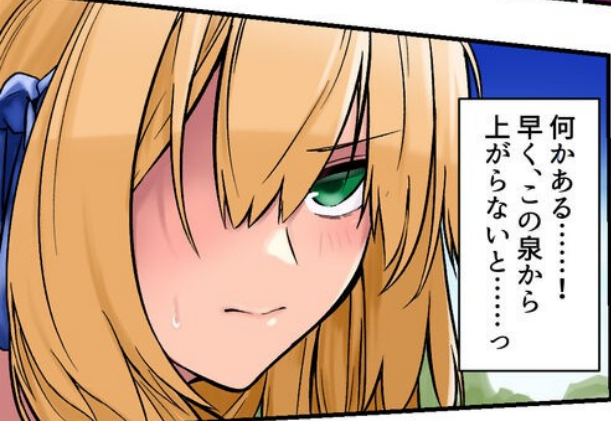


くっくっく...



ゲホッ  
うう...!!

な、なんだ...っ!?  
この水...  
なにか  
おかしい...っ!



何かある...!!  
早く、この泉から  
上がらないと...っ



くく...

フヒヒ フヒヒ



よしよし、  
寄生が始まったな



ひゃっ!?



な、なんだこれは...っ  
私の、肌が...っ

ヌル

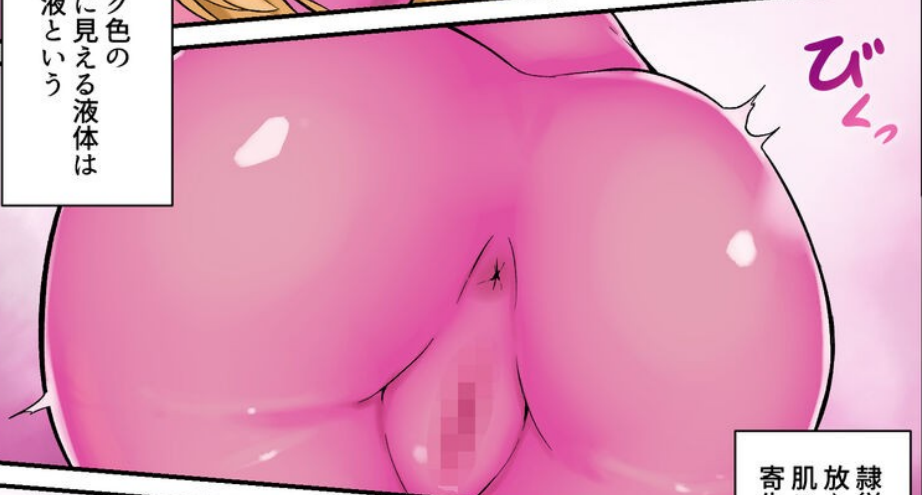
フル

アリシアが落とされた泉は普通の泉ではなかった

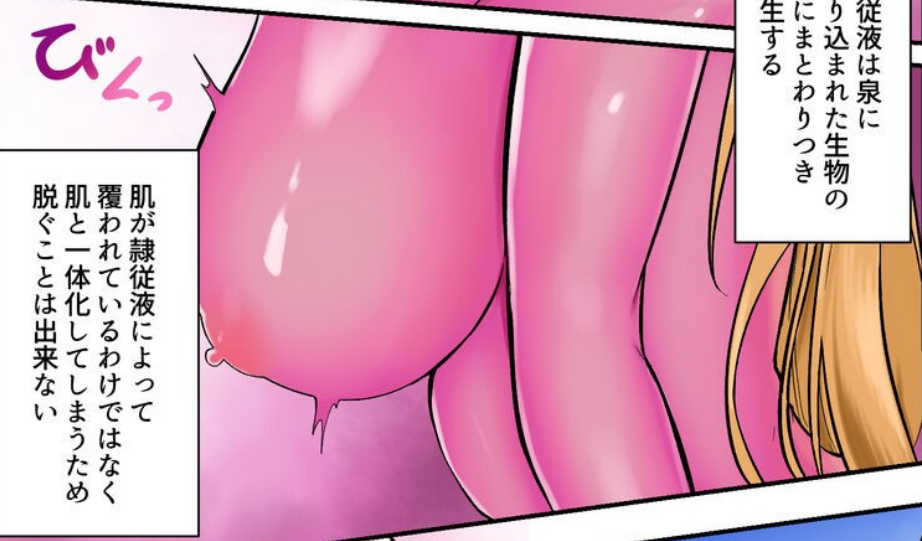
その名を『淫魔源泉』と云う

『淫魔源泉』とは魔族が下等淫魔を創り出すために用いる温泉だ

ピンク色のお湯に見える液体は隷従液という



隷従液は泉に放り込まれた生物の肌にとわりつき寄生する

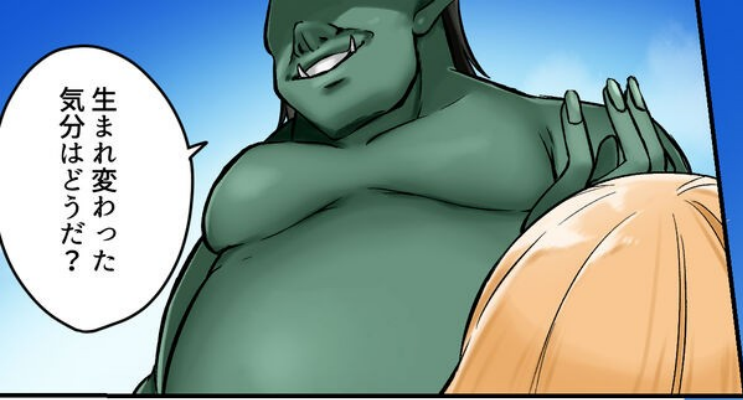


肌が隷従液によって覆われているわけではなく肌と一体化してしまうため脱ぐことは出来ない

完全にその隷従液が定着した時その獲物は下等淫魔へと成り果てるのだ

くっくっくっく  
我が同胞を  
幾人も葬った女も  
これで下等淫魔か……  
少しは溜飲が下がる  
というものだ





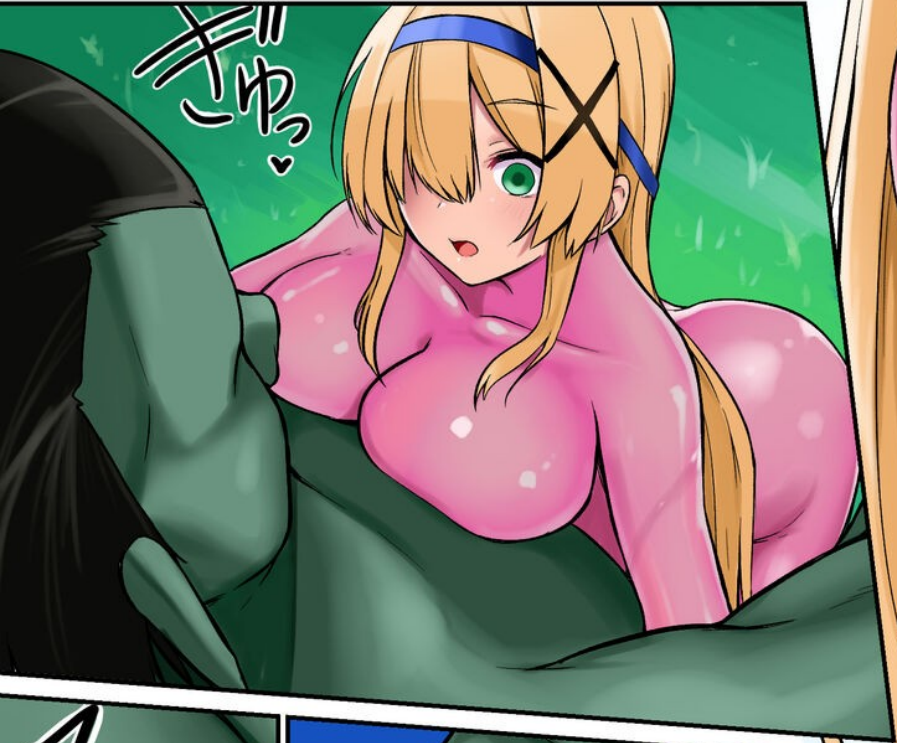
生まれ変わった  
気分はどうだ？



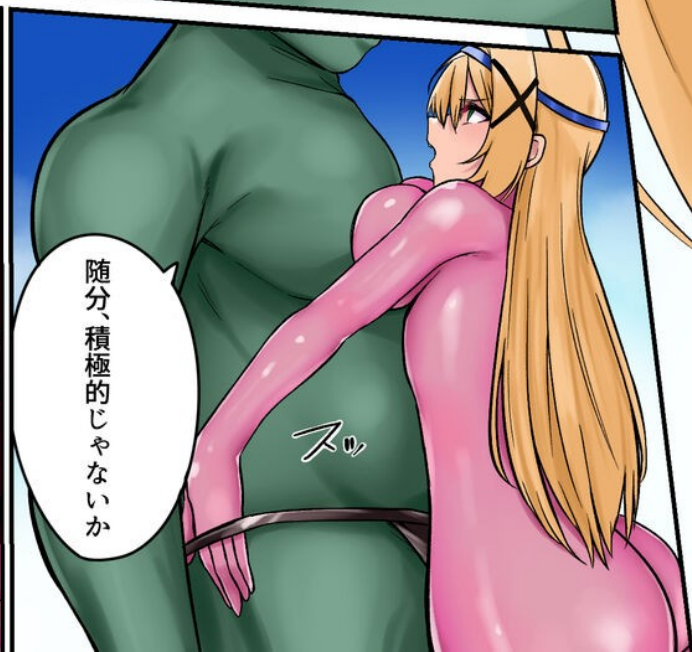
わ、私の体が……っ



くっ！  
最悪に決まって……!!



ちっ、ちがうっ！  
私の意思ではな



随分、積極的じゃないか



んあ...

い、いやあ...

ひあっ!

ングツツ  
ンウツツ!

じゅぽ...

ボロ...



隷従液に浸って  
誕生した下等淫魔は  
主人となった者の  
欲望を読み取って行動する

たとえ今は心が  
嫌がついていようと  
いずれは身も心も  
俺に屈するだろう

そんなに俺の物が  
欲しいならそれ相応の  
体勢があるだろう?

いほ

じゅぽ...

じゅぽ...







それからアリシアの  
凌辱の日々が始まった

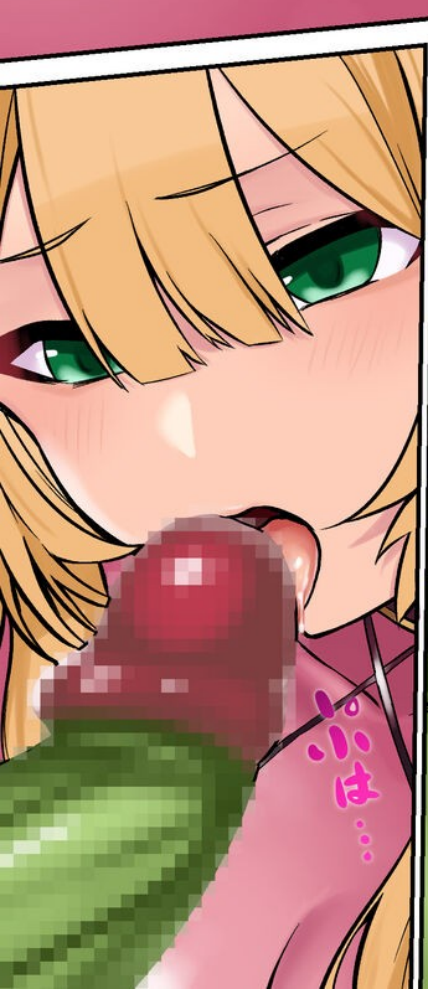
昼夜問わず  
気付けば犯される  
毎日だった



くくそお……!  
身体さえ自由に動けば  
こんな奴ら……!!



いやあ、  
だいぶこいつの舌遣いも  
上手くなって来たなあ



最初はチンコ弄るの  
下手くそだったもんな  
そろそろ良さそうだな





くっ……こんなこと  
したくないのに……っ！

は、

あ、

最初はキツくて  
窮屈だったが  
すっかり穴も  
広がったなあ

パシ

パシ

びちゃっ！

びちゃっ！

ぎゃあ……

こっ……

そろそろこっちの  
具合も確かめてみるか



おお!!?

ドクドク

ゴリゴリゴリ

ガキーン

いやあ  
いつでも女を  
犯せるってのは  
いいなあ

ああ  
休憩時間の  
楽しみが増えたぜ

あ

あ

ん

ん

んぱんぱん

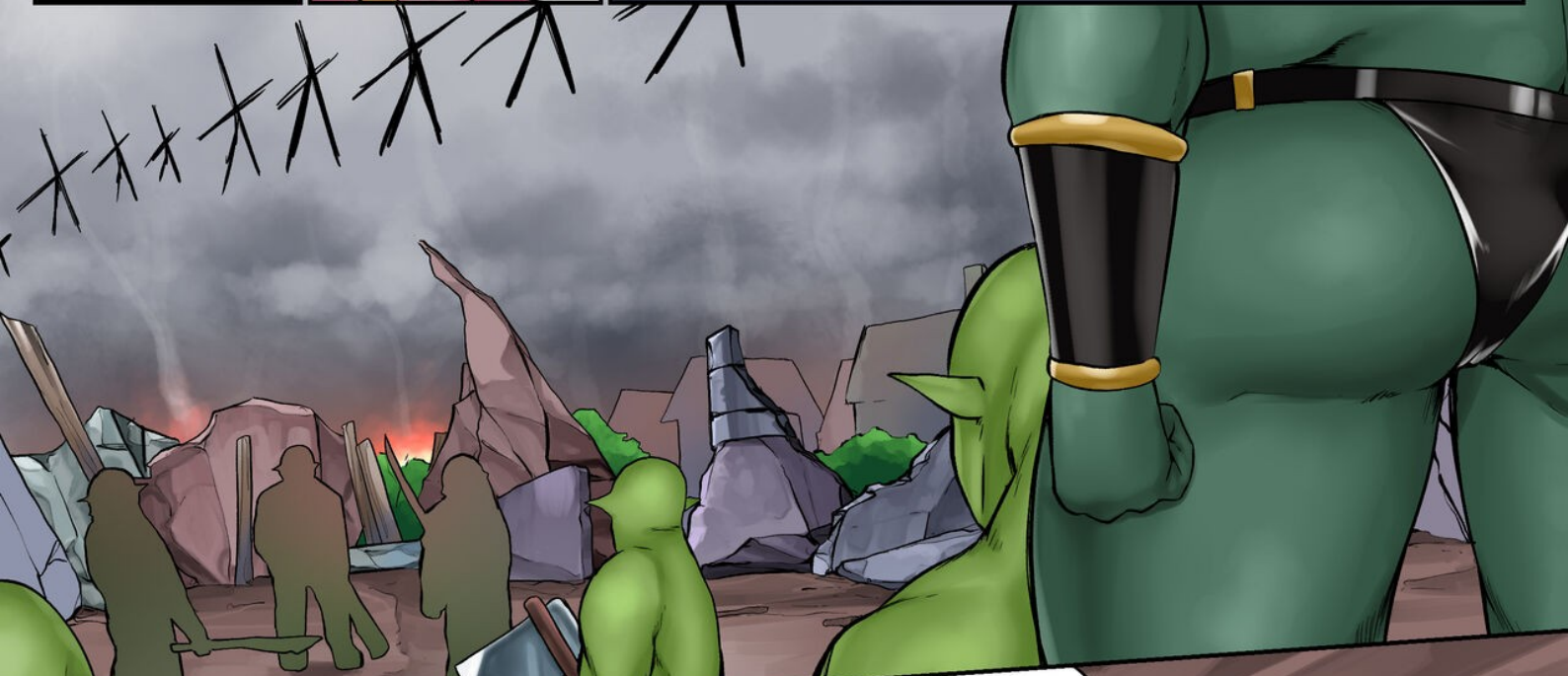
んめ

あ

耐えていれば  
きつと助けがくる……  
それまでの、辛抱だ……っ



わ、私は絶対に  
負けない……っ



バ  
タ  
ニ



そろそろ次に進む段階か

よし、これで  
砦近の人間の軍は  
一掃できたな





以前呼び出された時は  
机の下に潜り込み  
仕事中のオークロードの  
ペニスにしゃぶり  
つかされたのだった



……？ 妙だな？  
いつもなら  
勝手に体が動くのに



だから  
貴様の調教は  
今日で最後だ

今日耐え切れば  
貴様を解放してやる



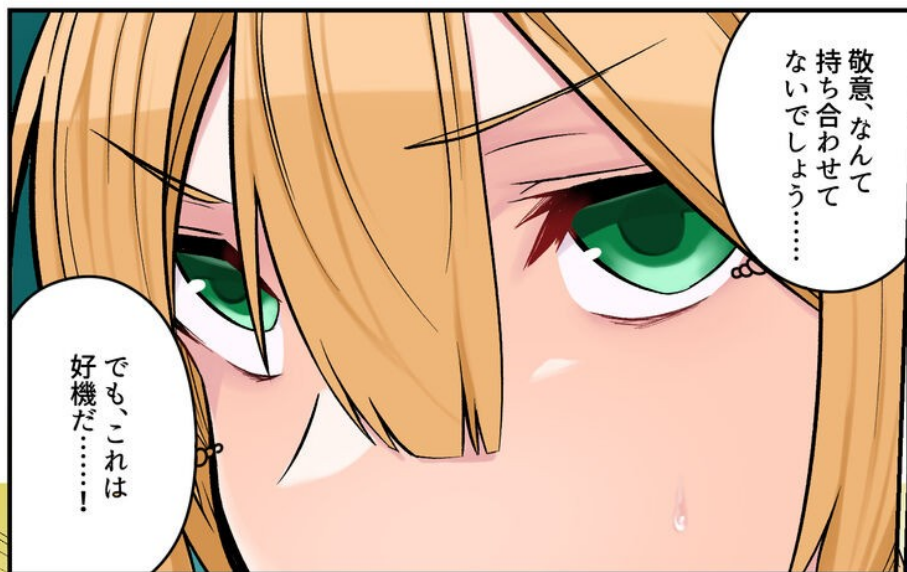
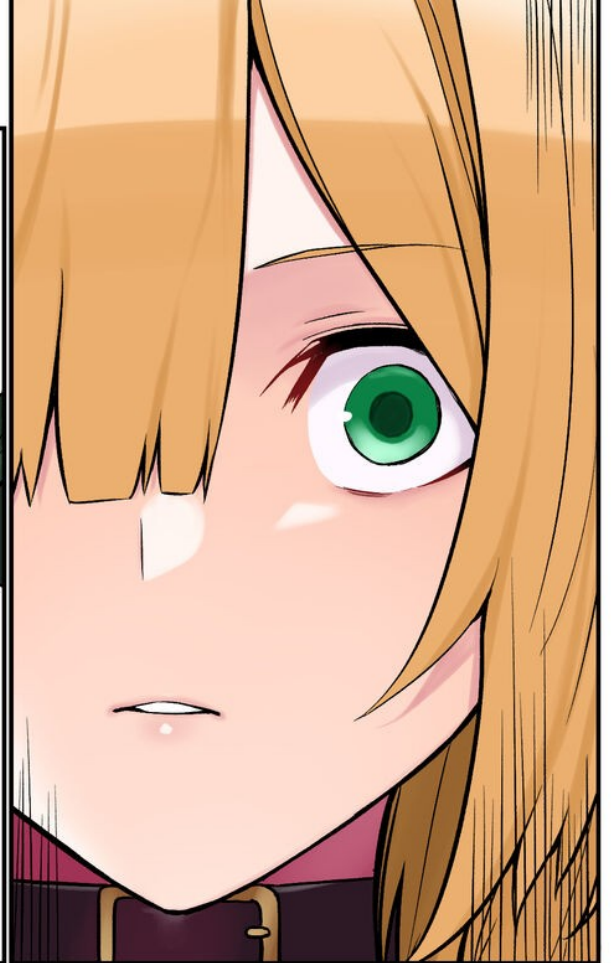
この付近の  
地盤固めが終わった  
俺たちはそろそろ  
次の場所へと  
進軍しなければならん



なんだと……!?

普通ならとつくに  
身も心も  
堕ち切っているはず  
なんだがな  
貴様の矜持とやらは  
俺の思っていたより  
高かったらしい

それに対する  
俺なりの敬意  
という奴だ



敬意、なんて  
持ち合わせて  
ないでしょう……

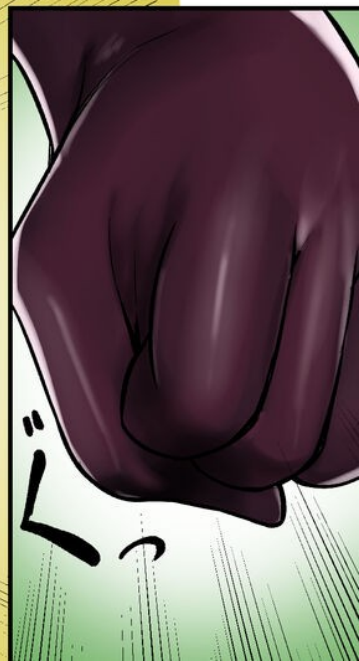
でも、これは  
好機だ……!

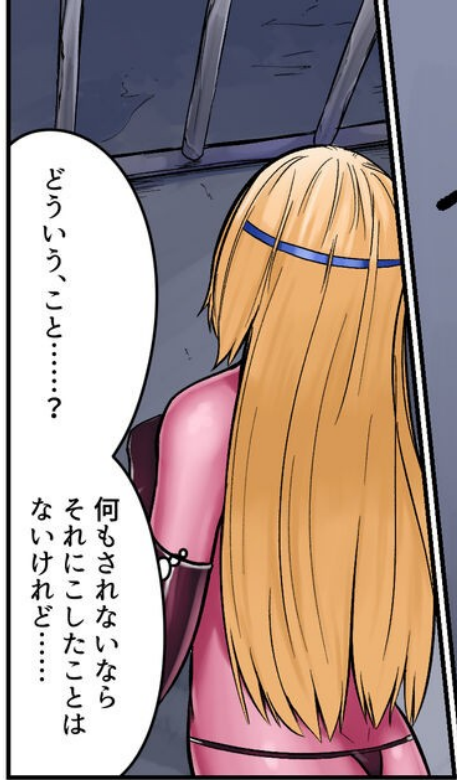


怪しい——と  
アリシアが思うのは  
必然だった



どんな調教にも  
絶対に  
耐えきってやる……!

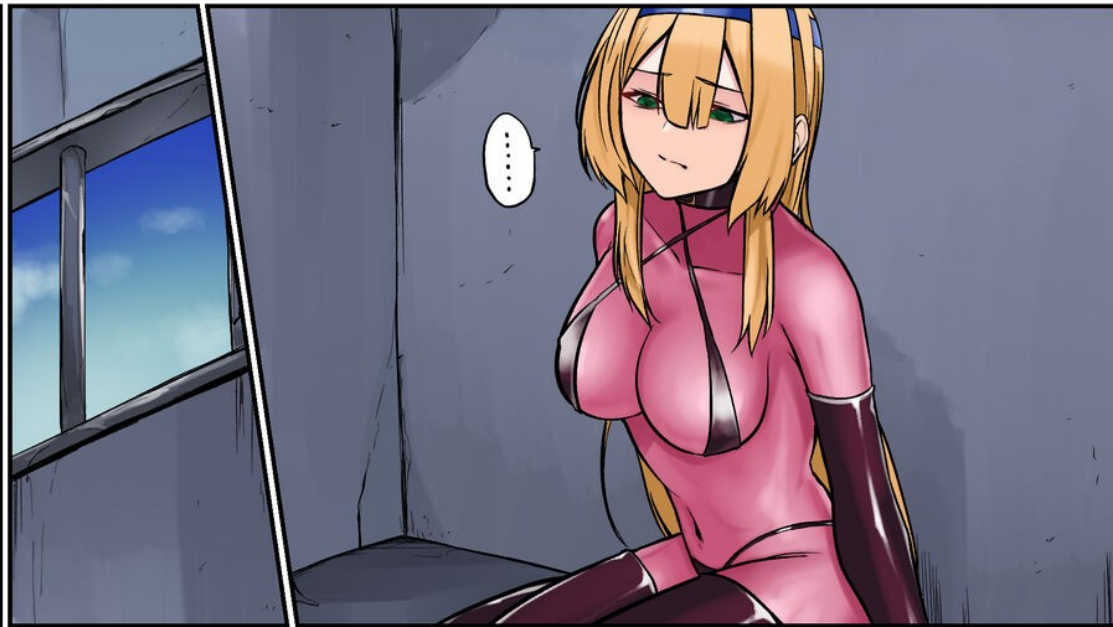




どういふこと……？

何もされないなら  
それにこしたことは  
ないけれど……

ガニャン



アリシアは  
知らなかったのだ

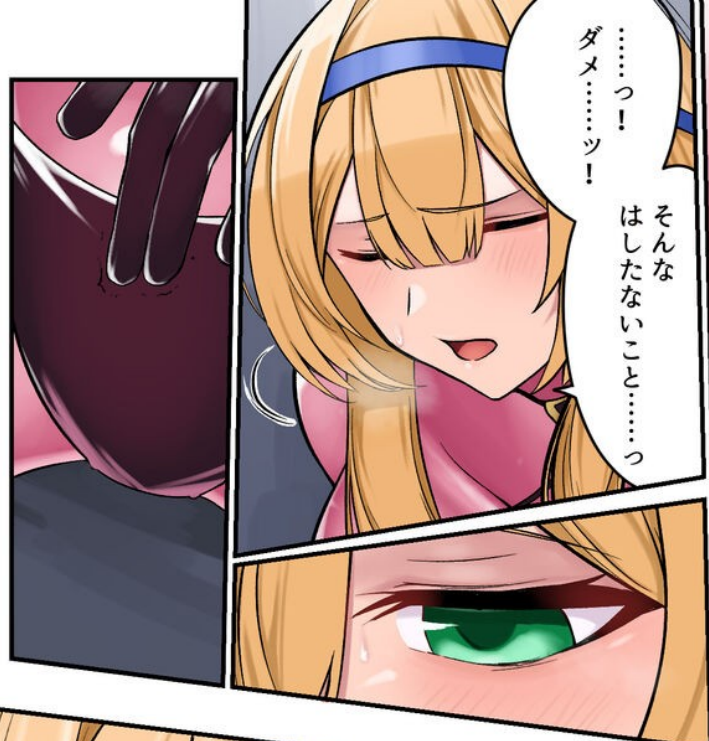
それまではアリシアが  
望まずとも絶え間なく  
性行為をしていたが  
それが急に途絶えた時  
飢餓感がどれほど強まるか



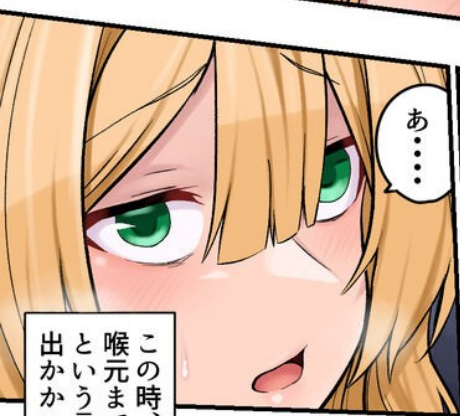
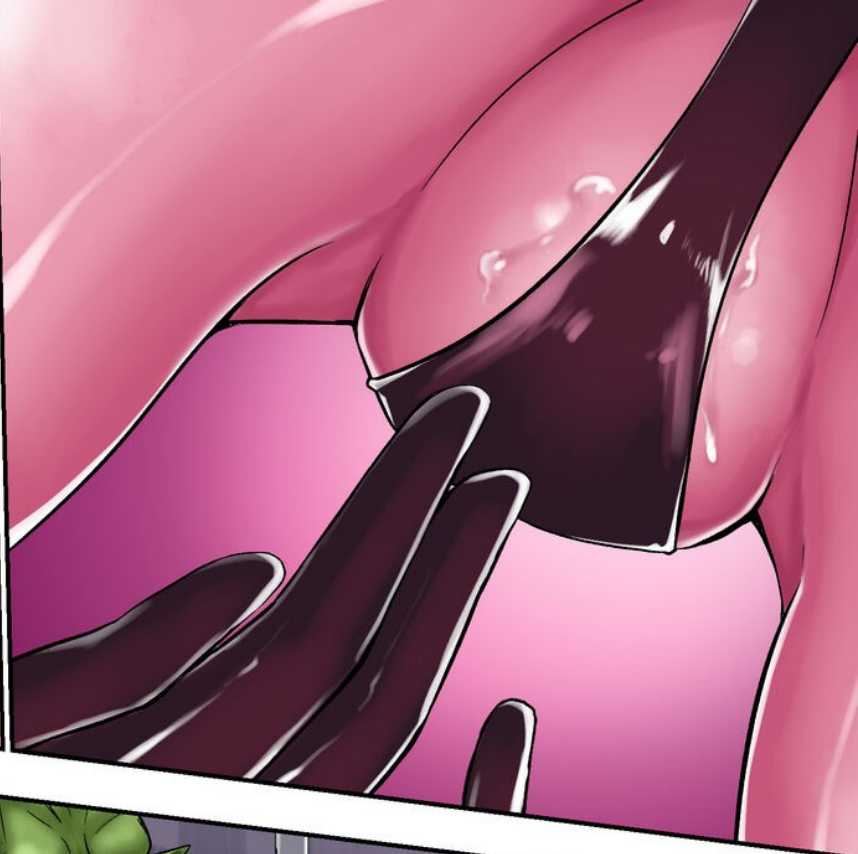
下等淫魔となった  
自身の体が  
性行為を行わないと  
強い飢餓感を  
覚えるように  
なっていることを



アリシアは  
知らなかった

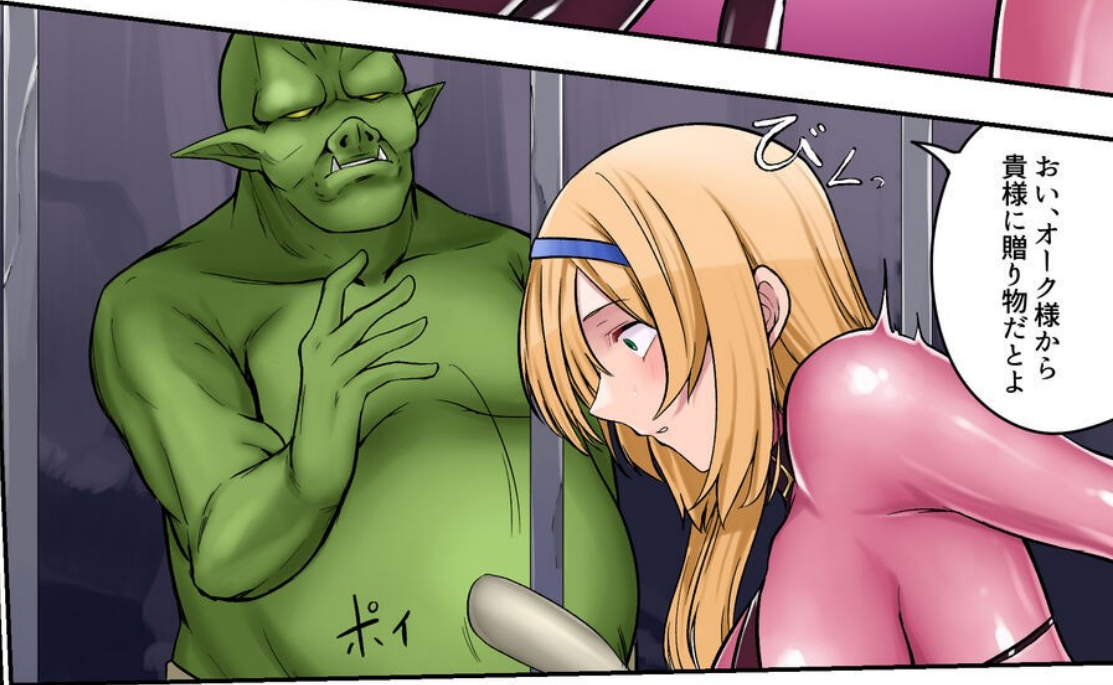


ダメ……ッ！  
……っ！  
そんな  
はしたないこと……っ



あ……

この時、アリシアの  
喉元まで『犯して』  
という言葉が  
出かかっていた



おい、オーク様から  
貴様に贈り物だとよ

びん

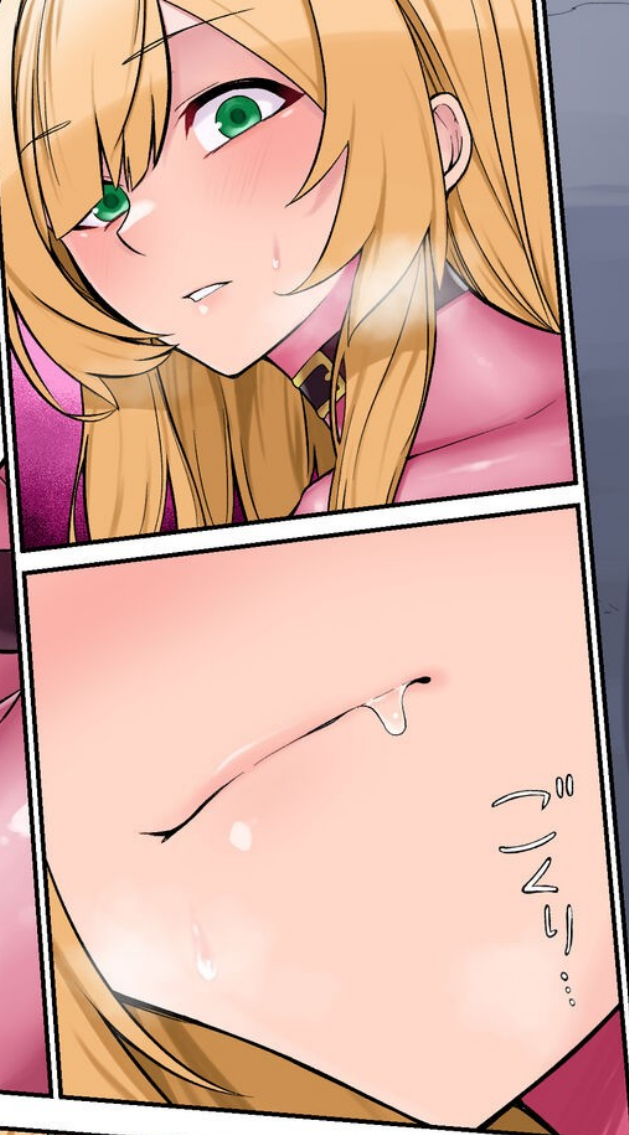
ホイ



……ク、ウツッ！

いま、私は何を  
しよう……っ！

そ、そうだ  
贈り物とやらは……



ふあああああ♡

ずんずん♡

あ、あ？  
あ、あれ……？  
気持ち、よく、  
ない……っ!?

ぐんぐん♡

ぐんぐん♡

下等淫魔が発情し  
強い快感を覚える条件は  
主人に奉仕することだ

毛み

毛み

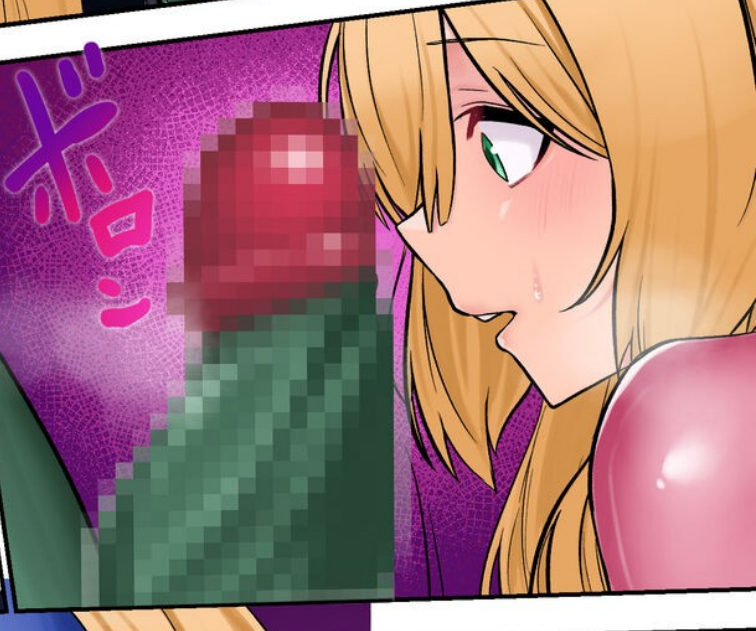
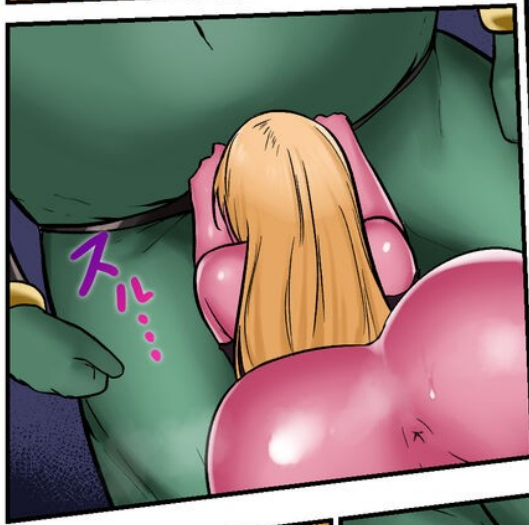
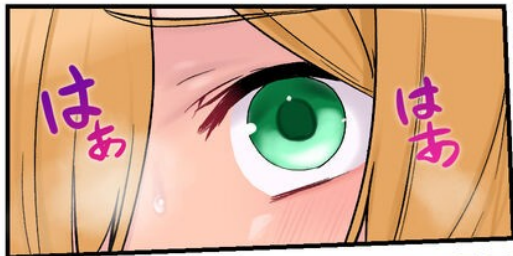
ゆえにアリシアは  
オナニーでは  
気持ちよくなれない

誰かに奉仕して  
初めて彼女は  
気持ちよくなれるのである

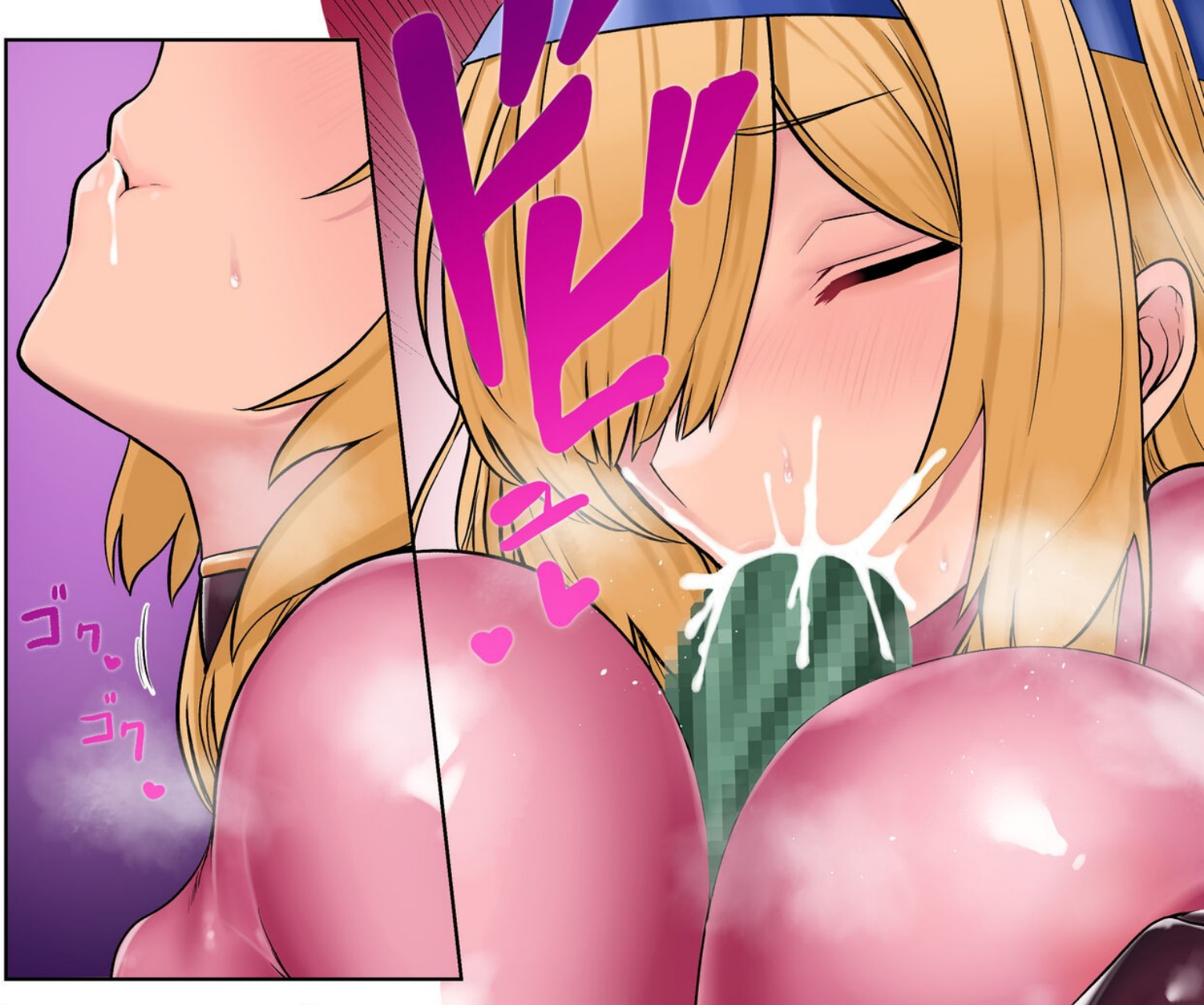
なんぞ？

なんぞ？

贈り物は喜んで  
もらえたようだぞ？









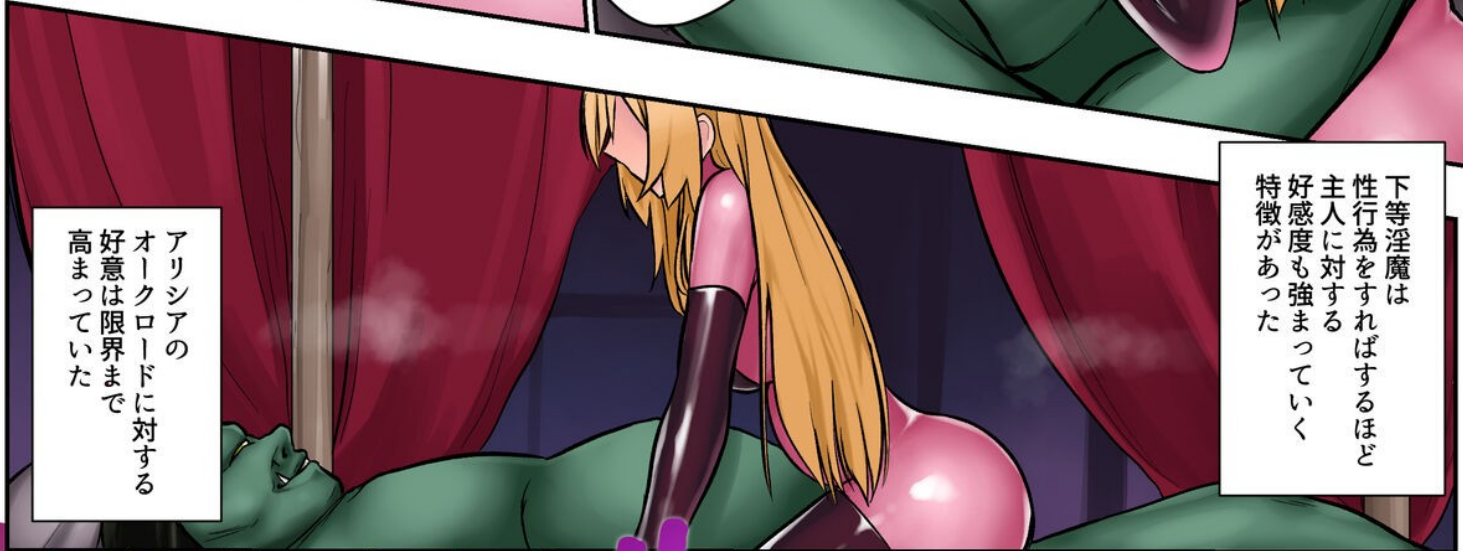
ご主人様……♡



きゅん

ガッ

全く……  
こう素直だと  
愛いものだな



アリシアの  
オークロードに対する  
好意は限界まで  
高まっていた

下等淫魔は  
性行為をすればするほど  
主人に対する  
好感度も強まっていく  
特徴があった



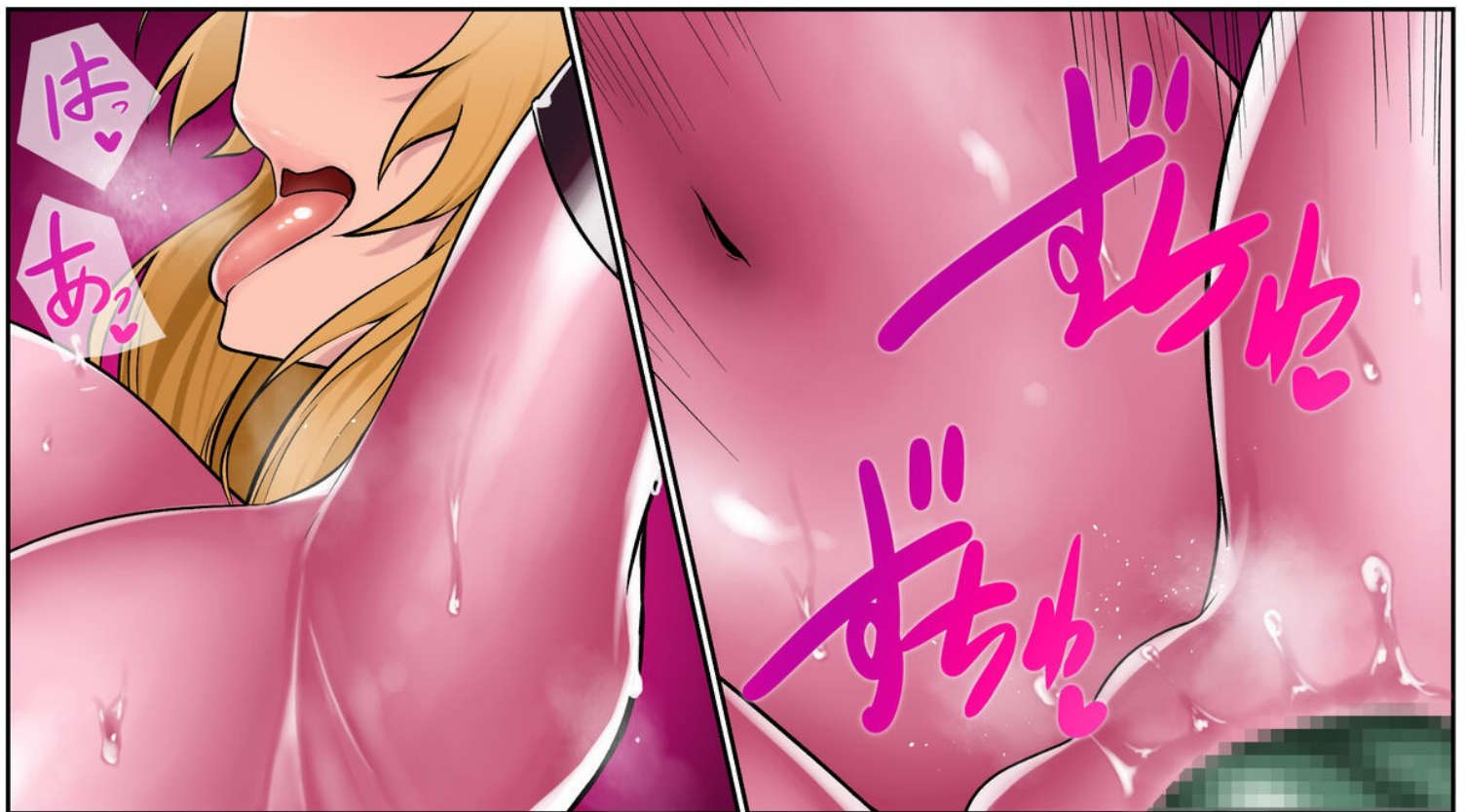
ずん

し、失礼しま……っ  
ふあ、ああっ！



アリシア  
お前から動いてみる

は、はいっ♡





いいぞっ  
俺はお前のなんだ？  
言ってみろ！

オーク様はっ♡  
私のご主人様ですっ♡



どうかこの卑しい雌をっ♡  
もっといジメてくださいませ♡

一生の忠誠を誓います！♡



はあっ♡

んあっ♡

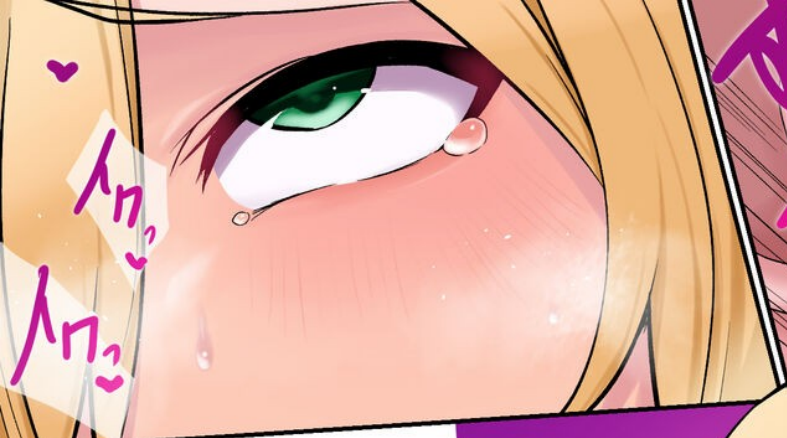
んっ♡



カッ

とちわ♡  
とちわ♡

とちわ♡  
とちわ♡



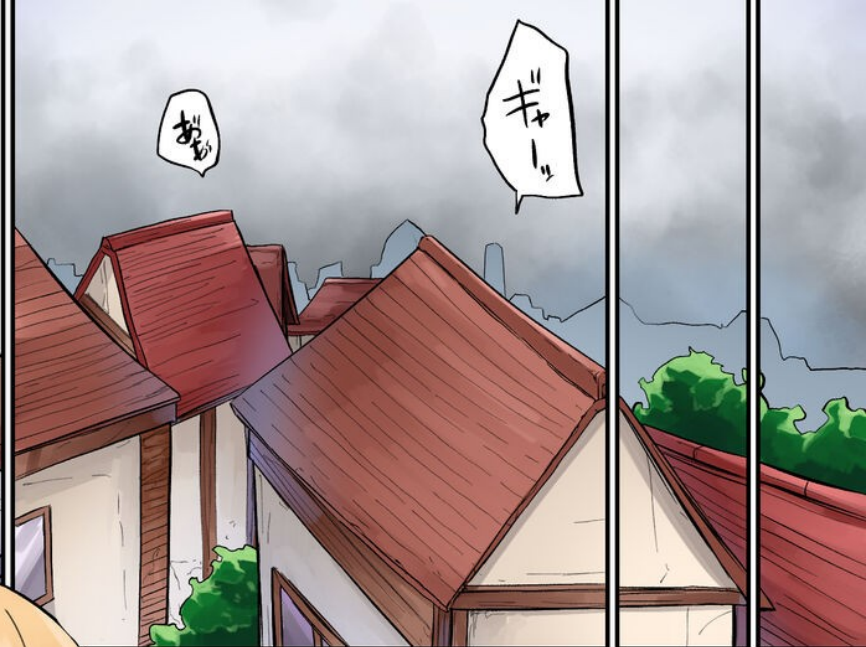
ブヒヒ……  
これで貴様は  
完全に俺の物だ  
これからは  
人間との戦いでも  
役に立ってもらうぞ





明らかにこっちの動きを事前にわかってる！なんだってんだ畜生！

敵の動きが早すぎる……！まるでこっちの町の構造を最初から知ってたみたいだ！

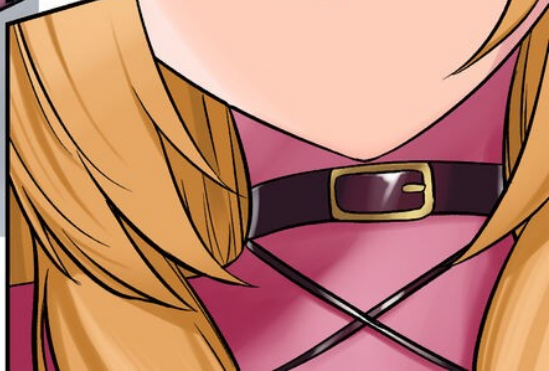
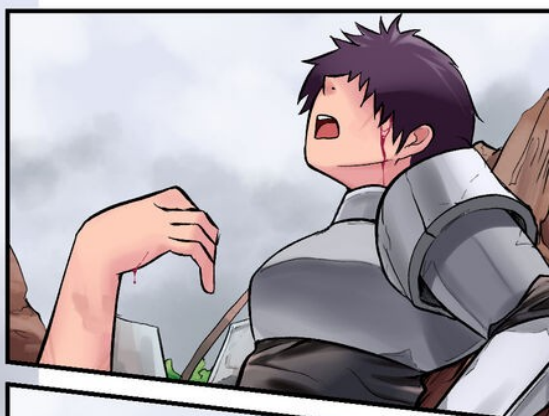


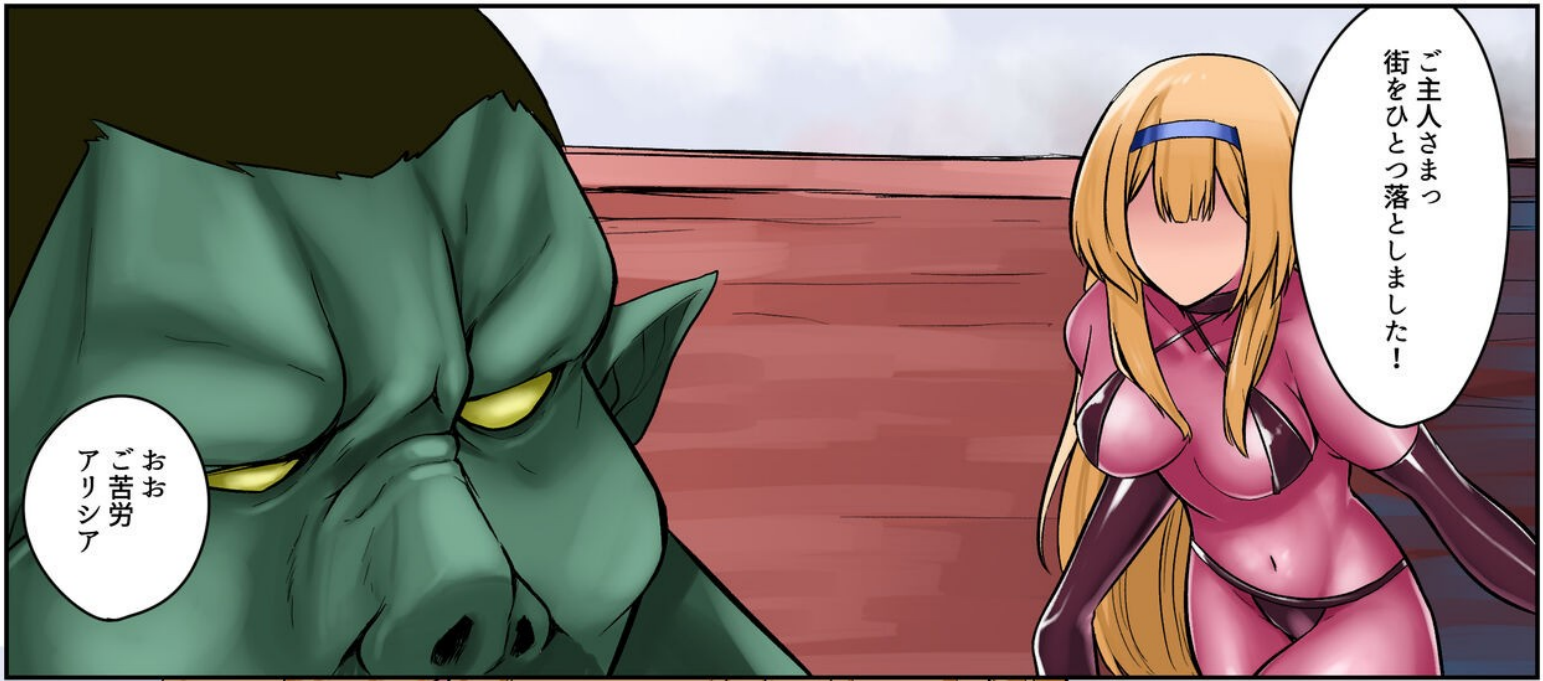
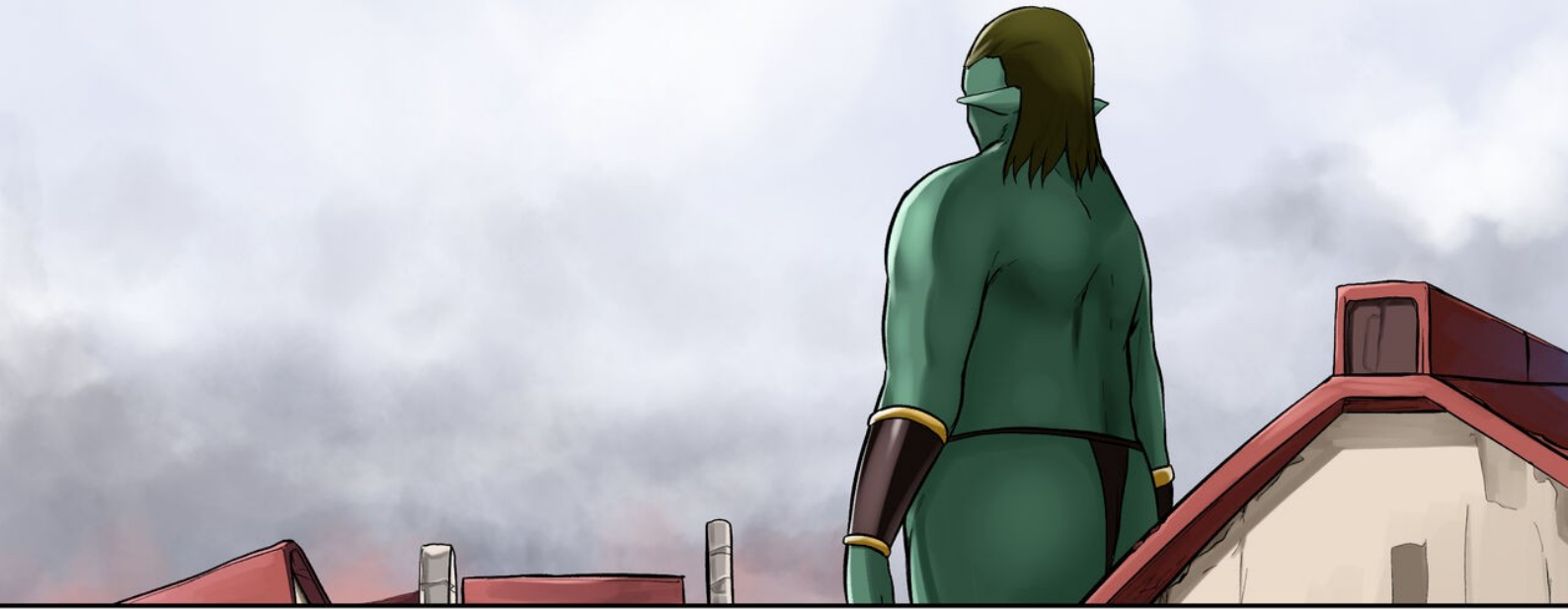
お

ギャー

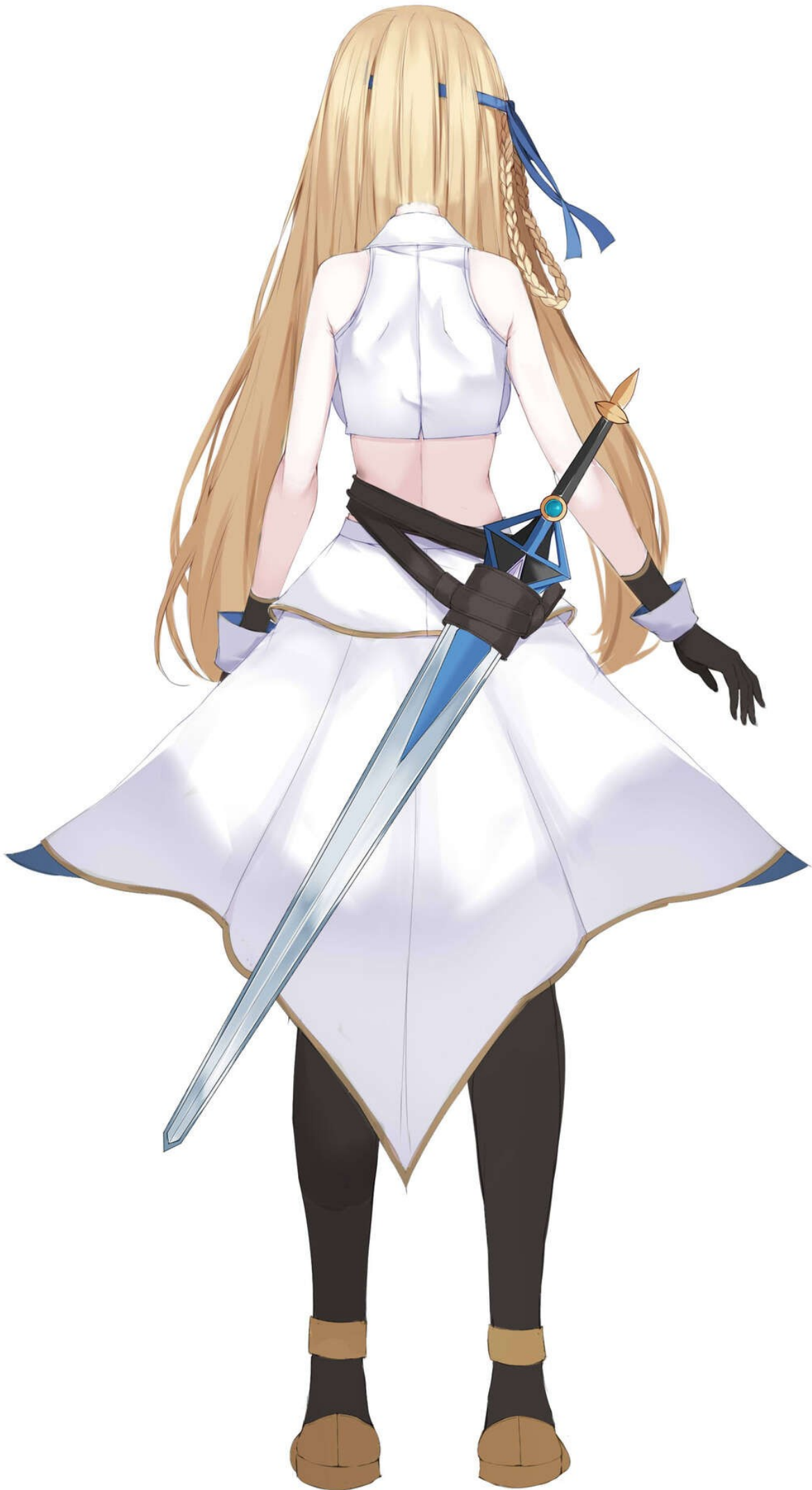


安心なさい直にあなたたちもご主人様の素晴らしさがわかるようになるわ













R-18  
ADULT ONLY

# 姫騎士アリシアの受難

オーク様は姫騎士を  
使い魔にしたい

PRESENTED BY

聖華快樂書店

STORY BY エルトリア

ART BY じゅらい COVER ILLUSTRATION 針魚

## 「くっ、殺せ！」

敵対するオークの首領に捕まってしまった姫騎士アリシア  
囚われの身となった彼女に待ち受けていたのは

オークの **使い魔** となり

**淫らなご奉仕** をすることだった

ぴっちりスーツに身を包み  
オーク様を癒す  
アリシアの屈辱的な  
日々が始まる…!



